

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名			
○保護者評価実施期間	令和8年2月1日		～ 令和8年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数) 0
○従業者評価実施期間	令和8年2月1日		～ 令和8年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	看護師を中心とした多職種連携により、医療的ケア児一人ひとりの状態に応じた支援を行っている。呼吸状態や体調変化の早期発見、対応に務め、安全面に配慮した支援体制を整えている	日々の体調変化を小さなサインから把握できるよう、職員間での情報共有を蜜に行っている。また、保護者との連携を重視し、家庭での様子も踏まえながら継続した支援に繋がっている	医療的ケアや呼吸ケアに関する研修、勉強会を継続し職員の知識、技術向上に取り組む。また、多職種との連携強化を図り、より安心できる支援体制づくりを進めていく
2	医療的ケアがあっても、地域活動や体験活動に参加できる機会を大切に、外出活動や地域交流を通して、経験の幅を広げている	安全面に配慮しながら「できない」ではなく「どうしたらできるのか」を考え、子供の状態に応じた活動調整を行っている。また、子供の表情や反応を大切にしながら、楽しめる環境づくりを意識している	地域資源やボランティアとの連携を広げ、地域の中で自然に繋がれる機会づくりを進めていく。また、季節行事や体験活動の充実を図り、社会参加の機会を増やしていく
3			

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	医療的ケア児支援には専門的な知識や経験が必要であり、職員の確保や育成が継続的な課題となっている。また、支援内容の高度化、多様化しており、職員の負担が大きくなりやすい	医療的ケア児分野は専門性が高く、人材不足が課題としてある。また、実践経験を詰める場が限られていることから、支援技術の習得に時間を要する	定期的な勉強会や事例共有を行い、職員の知識、技術向上を図る。また、多職種連携や外部研修への参加を通して、学び続けられる環境づくりを進めていく。職員への段階的な育成体制の強化も必要である。
2	医療的ケアや安全面への配慮を優先する中で、子供の発達段階や個性に応じた遊び、活動の提供が十分でない場面がある。特に「その子らしさ」や興味関心に合わせた遊びの展開、発達を意識した関りについては、さらに工夫や充実が必要である	医療的支援では、安全管理や体調観察への意識が高くなる一方で、遊びや発達支援の視点が後回しになりやすい。また、重症度や身体状況に応じた遊びの引き出し、発達理論に基づく支援方法について、職員間で経験や知識に差があることも要因の一つとなっている。さらに、体調変化が大きい子供が多く、その日の状態に合わせた活動調整が必要になる為、活	子供の発達段階や感覚特性、興味関心を丁寧に把握し、「なぜこの遊びを行うか」という根拠を持った支援を意識していく。また、感覚遊び、コミュニケーション遊び、姿勢や身体機能をいかした遊びなどについて学びを深め、医療的ケア児でも参加しやすい遊びのバリエーションを増やしていく
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 児童デイサービス トリトン

令和8年 3月 30日

公表日 日

令和8年 3月 30日

利用児童数 日

回収数

0

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。						
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。						
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。						
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。						
適切 な 支 援 の 提 供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。						
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。						
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。						
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。						
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。						
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。						
	11 保育所や認定子ども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他の子どもと活動する機会がありますか。						
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。						
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。						
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。						
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。						
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。						
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。						
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。						

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。					
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。					
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。					
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。					
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。					
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。					
	29	事業所の支援に満足していますか。					

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童デイサービス トリトン		公表日		令和8年 3月 30日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4	4	ベッドの配置や物の配置を随時変更して児の活動スペースを確保しています。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	0	8	今後、看護師の配置人数を増やせるよう調整しております	休日や祝日、長期休みの際の職員配置が不足感がある状況です	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	5			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	1	ベッドの配置や物の配置を随時変更して児の活動スペースを確保しています。	利用人数が多いとスペースが狭い状況になっています	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	1			
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	8	0	日々のミーティングや記録をもとに支援内容の振り返りを実施しています	記録の漏れ等もあり、情報共有がしっかりとできていない場合があります	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0	保護者面談を実施しています。また、送迎時にも情報共有を行っています		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	1	職員から出た意見は傾聴し、より良くなるよう業務改善につなげています	す。今後は、より誰もが意見を出しやすい環境づくりや意見収集の方法を工夫し、多様な声を業務改善へつなげられるようにしていきます	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	5			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8	0	月に1回事業所内での勉強会を行っています 各委員会の法人研修にも参加しています	研修後、現場で活かされていないことがあります。今後は、研修後の振り返りや実践共有の機会を増やし、支援現場へ具体的に落とし込める体制づくりが必要と考えています。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7	1	発達段階や医療的ケアの状況に応じた支援内容を整理し、保護者にも分かりやすい支援プログラムの作成、公表に努めています	いない部分もある為、今後は写真や具体例を活用しながら、よりわかりやすい発信方法を工夫していく必要があります	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7	1	日々の関りや保護者との面談、関係者からの情報共有を通して丁寧にアセスメントを行い、一人ひとりのニーズや課題の把握に努めています		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	1			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8	0			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8	0			

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8	0		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8	0	職員間で子供の様子や目標を共有しながら、多職種で意見を出し合い活動プログラムを立案しています	一部の職員に意見や役割が偏ることがある為、今後は全職員が主体的に参加できる仕組みづくりが必要です
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8	0	季節行事や感覚遊び、地域交流などを取り入れ、一人ひとりの発達段階や興味に合わせて活動内容が固定化しないよう工夫しています	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8	0		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	0		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	0		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	0	日々の支援内容や体調・反応を記録として残し、職員間で共有、振り返りを行うことで支援の改善につながっています	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8	0	日々の情報共有をもとに定期的なモニタリングを行い、成長や状態変化に応じて柔軟に計画の見直しを行っています	
	関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8	0	
25		地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8	0		
26		併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8	0		
27		就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8	0		
28		(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
29		質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
30		(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
31		(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	5	3	児童発達支援センターや関係機関と情報共有やケース相談を行い、必要に応じて助言や研修を受けながら支援の質の向上に努めています	
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	8	0		法人全体でのイベントの際に交流はあるが、年に数回の為、今後交流する機会を増やせるよう努めていきます	

	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4	3		
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8	0		
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8	0		
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8	0		
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8	0		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	2		
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	8	0		保護者の繋がりはあったりするが、きょうだい同士でのつながりは乏しい状況になっている為、今後、交流する機会を設けられよう計画していきます
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8	0	保護者からの相談や苦情には迅速に対応し、職員間で情報共有を行いながら丁寧な説明と改善に努めています	受け取り方や感じ方に個人差がある為、より分かりやすく伝える力や継続的な信頼関係づくりに努めています
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8	0		連絡帳やInstagramでの活動を定期的に配信を行っています
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	0	個人情報は施錠管理や職員間のルールの徹底を行い、必要最小限の共有に留めるよう配慮している	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8	0		
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8	0		
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8	0		
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8	0	BCP委員会を中心に定期的に避難訓練等実施しています	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8	0	保護者や医療機関と連携しながら定期的に確認、共有を行っています	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8	0		
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	0		
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8	0	職員間で迅速に共有しています	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8	0	定期研修や事例共有、多職種での振り返りを通して、職員の権利擁護意識と適切な支援力の向上に努めています	
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8	0			

53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	8	0		
----	------------------------------------------------------------------------------	---	---	--	--